

こうやって、一番身近なパートナーを金でつりたくはないけれども、後継者にバトンを渡すときには、案外と素直にいくのではないかなと思います。

#### ◆一番大切なものは、ここに住んでいる人たち

一番大切なことはお金じゃなく、ここに住んでいる人なのです。そこで昔の青年団的な感覚を今の高校生で復元できないかなと思って、高校生クラブをつくらうと思いました。ところが、簡単ではないのです。私の思いつきはこうでした。高校生に「今年の夏休みに、飛行機に乗ってオリックスのイチローの野球を見に行こうや」と僕が話しかけたら、「行きたいけどお金がないよ」となった。そこで「おじちゃん、おばちゃん、軍資金を稼ぐために畑を貸してください。芋植えしますからお手伝いしてください。」と集落に放送したら、協力してくれたじいちゃん、ばあちゃんがいっぱいいた。高校生というのは案外と連携ということを知らなくて自分のことだけが先行しているから、こういったことが彼らにはすごく勉強になるのです。

また、地域振興策などについて学ぶ「創世塾」が行われたとき、中学3年生の男の子が1時間やねだんを語りました。そして最後に、質問者が「やねだんを一言で表現したら何と表現しますか？」という質問をしました。すると、中3の彼は「子供から大人までチームワークのやねだんです」とポンと言ったのです。その次に「やねだんには浮浪者は絶対に出ません」と言い切りました。やねだんでの体験は、すべての延長線なのです。

#### ◆地域づくりの基本は出番があること

地域づくりの基本は人間として「私も出番はあるのだ」ということ。そこが知恵の出どころ、創造力と思考力ではないのかなと私は思います。芋づくりをスタートした時は畑の面積は30アールでした。後に、1ヘクタールまでで100名出てくるようになったのです。この当時126世帯ぐらいありましたから、100名ということは出てこれない人を除くと大体9割が、各家庭から1人は出てくるということです。人間の認め合いというのは、ここにも抵抗があるのです。土、日曜になるとゴルフをしている人がいましたが、

「みんな芋植えをするのにまた息子は出ていった」とその人の母親が一番悩んでしまうのです。これを解決させる方法がリーダーなのです。創世塾ではこれを教えるのです。ばあちゃんを安心させる方法を皆さんぜひ考えてください。当日予定で出られない人は前日に芋を植えてもらう。1ヘクタールですので、10アールに3,000本だから3万本です。100人出てきてくれたら、1人が300本植えればいいのです。1束100本だから、3束植える。すると夫婦で来る人がいっぱい出てくる。余分に植えてくれているのです。3分の1は前の日に終わる可能性がある。植えたら必ず班長に出席しましたよと報告してくださいと言います。リーダーはこの次が大切です。フォローって僕は言いますが、翌朝の放送で、敬称を略して班別に昨日の芋植え参加者を報告します。まず前日に植えた方から放送して、3班、〇〇太郎、花子という、ばあちゃんが聞いて、あの人たちは前の日に夫婦で行ったのだと安心する。この喜びの作戦が功を奏したのです。

ですから、当日主義プラス前日主義ということは何をするにしても大切です。こうすると、3時間で作業が終了します。4時間で収穫終わって、1町歩だと大体70万円ぐらい収益が上がります。この収益で、臭気を消そうとして土着菌に入ったのです。

#### ◆大腸ガンをわずらって

私は、大腸がんの手術を7時間やって、今年で6年過ぎました。6回目の検査をしましたが、医者は私の手を握って「豊重さん、あんたは99%再発しない、私が断言する。神様がもっとやねだんのために、日本のために頑張れと言っているんだよ」と言いました。私は治癒力を信じて、言われたように水を1日2~3リッター飲んでいただけです。水の威力というのは本当にすごいですし、微生物も水がなかったら繁殖しないのです。

人間というのは、最後は体力です。健康と体力は違うのです。私はそれを味わいました。今日の昨日まで風邪を引いたことはないのです。なぜ引かないかというのは自分ではわかりませんが、父、母、祖先からありがたい体力と骨格という財源をもらったからなのだと思います。

#### ◆主婦を動かす

ぜひ、地域づくりには主婦を動かしてください。そのためには何が必要かといったら、原料です。この人がつくった土からこの大根ができたよというのが、地域貢献の1つです。活性化グループの育成は、加工グループが一番身近で、高齢者でも農業をしていない婦人でも絶対できるのです。

#### ◆連携とありがとうの証明

今、口蹄疫でまいていっているけれども、やねだんの60キロ先の都城まできていて本当に大変でした。やねだんには牛が550頭、豚が7,000頭、人間は314人います。だから、この口蹄疫ではみんなで見守り役をして、集落に入ってくる路地は全部消石灰を何百俵と振りまきました。外から見にこられた人は自主防衛をみんなでやっているのはやねだんだけだっぴっくりします。これが、私が言う連携とありがとうの証明なのです。

#### ◆集落にボーナスを出した理由

なぜボーナスを出したのかというと、高齢者に10年間の思いを伝えたかったからです。そこまでしてくれるのかとみんなが泣きました。先人の偉業があって、300年前、やねだんが7人の落人で動き始めて今があるから私たちがいるということ、身を持って伝えていかないといけないということでやっただけなのです。

#### ◆本気が伝わる地域づくりを

今、上小原中学生の122名が学期ごとにやねだんへ4時間芸術を学びにやってきました。教育委員会を動かすのに当初は難儀しましたが、マイクロバスをやねだんでチャーターするから、往復の時間も含めてふれあいの時間をやねだんでやらないかと言って、去年やっと動き出しました。カメラ、ブロンズ彫刻、陶芸、油絵、水彩の授業に全員が参加してくれたのです。上小原は、僻地の学校ではないけれども、美術や専門の先生が長い間いなかった。それなら、プロの彼らにお願いしようと思いました。彼らも喜んで動いてくれました。社会はお互いに円満な



仲間づくりが基本です。地域づくりで過疎だからとか、現代はだめだとかという批判的な感覚じゃなくて、本気が伝わるような地域づくりをやるために、小中学校が地域活動の頂点の場だと私は思っています。

#### ◆やってやれないことはない

私は18歳で東京の銀行に就職しました。でも、支店長にもなれんなどと思って、僕が行動を始めたのが11月3日。東京の池袋から大宮、高崎を通過して、碓氷峠の旧道を1回も休まず自転車で登りました。うそだと思ってしまう。休まない方法を教えます。マラソンは時間稼ぎのために一直線に走っていきますよね、ときには横にいけばいいですよ。3メートル行って2メートル下がって、17時間かかりました。

当時、私は18歳で今年69歳になりましたから、50年ぶりに絶対行くと言っていました。僕が昔歩いた甲州街道・中仙道を全部車で走ったのです。碓氷峠には184ものカーブがありますが、最後のカーブまで来たところで涙が出ました。こうやって、私は「人間はやってやれないことはない」という体験をしてきました。自分でスケジュールを作ってトライしていくのは辛くありません。けれど「いいからやらんか」と他人に言われると、嫌々やることになって人づくりにはなりません。

だから、私は命をかけて徹底して教えています。自分の雑学のために今何をしなければならぬかという延長線が仲間づくりになって、リーダーとなり、勉強・話し合いという形になっていくのです。

#### ◆財源は人にある

地域づくりは身近にいる体験者や高齢者など、そういった人たちを引き出してあげることがリーダーの一番たやすい、現実味の帯びたむらづくりの基本だと思います。田舎であろうが、都会であろうが、引き出すことさえ考えられれば、人にいっぱい財源は絶対にあります。頑張ろうじゃありませんか。